

# いのち・ゆめ・人間らしさ

## フリードル先生とテレジン収容所の小さな画家たち

### 野村路子講演会&ワークショップ

ホロコーストという歴史の悲劇を語り継ぐだけでなく、そこから生まれる希望と平和のメッセージを未来へつなぐ——。本企画では、フリードル先生のもと、テレジン収容所で子どもたちが描いた絵を通して、戦争の悲惨さと人権の尊さを見つめ直します。また、ワークショップを通じて、当時の子どもたちの状況をより身近に感じ、平和のあり方について考える機会を提供します。

今回はガザの子どものたちの作品(レプリカ)も展示します。



講演 野村 路子さん

ノンフィクション作家

「テレジンを語りつぐ会」代表



#### 作品展示会

1/7(水)-1/25(日)  
プラツツ5階フリースペース

1/26(月)-1/27(火)  
プラツツ6階第2会議室

テレジン収容所で描かれた  
こどもたちの作品とパネルの  
展示会です

2026.1月18日(日)

14:00~17:00 13:30開場

府中市市民活動センター プラツツ 6F 第2会議室

定員 50名(申込先着順) 参加費 無料

申込 申込フォーム、又は来館、電話、メールで受付

お申込みは  
こちらから



主催

府中市市民活動センター プラツツ

協力

テレジンを語りつぐ会府中

問合せ

042-319-9703 042-319-9714 183-0023 東京都府中市宮町1-100  
moshikomi@fuchu-platz.jp ル・シニユ5,6階(京王線 府中駅南口直結)

府中市市民活動センター  
プラツツ



## 令和7年度 講演会事業

### 講演会：フリードル先生とテレジン収容所の小さな画家たち

#### 野村 路子（のむらみちこ）さん

1937年東京生まれ。ノンフィクション作家。川越市在住。

早稲田大学文学部仏文科卒業。コピーライター、タウン誌編集長を経て、30代から新聞・雑誌にエッセイ、ルポルタージュを執筆。1989年、ホロコーストの犠牲になった子どもたちの絵に出会い、91年から全国各地で『テレジン収容所の幼い画家たち展』を開催、30数年にわたり、ポーランド、チェコ、イスラエルなどを訪ね、数少ない生き残りの人に取材を重ね、「知る勇気伝える努力」を自らの義務として、執筆、講演活動を続けている。

2023年から、川越市内の小中学校に「命と平和の大切さ」を伝える出張授業を行っており、多くの生徒から素晴らしい感想文が寄せられている。今年も継続が決まっている。

『15000人のアンネ・フランク』『フリードル先生とテレジンの子どもたち』『子どもたちのアウシュヴィツ』『生還者の声を聴いて』など著書多数。

『テレジンの小さな画家たち』で産経児童出版文化賞大賞受賞。『フリードルとテレジンの小さな画家たち』は、小学校6年国語教科書（学校図書）に掲載されている。

2001年、シドニー・オリンピック開催時、雑誌『NUMBER』に、『畠中和 マラソン女王 たったひとりの闘い』を書いたのを機に、車いすアスリートと交流、アテネ・パラリンピック、世界陸上大阪大会、大分国際車いすマラソン大会などを取材、『車いすレースのパイオニア 廣道純』執筆。その後、同誌に『箱根駅伝 タスキをつなげなかつた男たち』『ザスパ草津 温泉町からJリーグをめざせ!』『根鈴雄二 メジャーに挑んだ野武士』などのスポーツ・ノンフィクション掲載。



#### ワークショップ：フリードルのアトリエ

#### テレジンを語りつぐ会 府中さん

子どもたちや若い世代にもテレジンの物語を伝えたいと、フリードル先生の指導法を元にしたアートワークショップを中心に、母親4人で活動中。「ありのままでいい場所、ありのまま表現できる場所」を皆で創りながら、お互いに尊重し合える体験に繋がることを願っています。

2020年設立より野村氏講演会など多数開催。2023年府中市初となる「テレジンの小さな画家たち展」（府中市美術館市民ギャラリー）を開催し800人来場。2024年「府中のまちクリエイター」として市内小学校にてゲスト授業。



#### フリードル・ディッカー＝ブランダイス(Friedl Dicker-Brandeis)

1898年にウィーンに生まれたユダヤ人の画家・教育者です。彼女は、20世紀初頭の革新的な芸術運動「バウハウス」で学び、パウル・クレーやヴァルター・グロピウスらから強い影響を受けました。ナチスの台頭により迫害を受けたフリードル先生は、チェコのテレジン強制収容所に送されました。そこで彼女は、過酷な状況下に置かれた子どもたちに美術教育を施し、絵を描くことで心の自由と希望を育むことを目指しました。彼女の教えを受けた子どもたちは、約4,000枚もの絵を残しました。それらは、戦争の悲劇の中で生きた証として、今も世界中で展示され、語り継がれています。

フリードル先生自身は1944年にアウシュヴィツで命を落としましたが、彼女の教育と芸術への情熱は、子どもたちの作品を通して今も生き続けています。